

	brachytherapy for prostate cancer.				
Kanai, T, <u>Shimbo, M</u> , <u>Nishio, T</u> , et al.	Cross-calibration of ionization chambers in proton and carbon beams.	Phys Med Biol	49	771-81	2004
Namiki S, <u>Hayakawa, K</u> , et al.	Quality of life following brachytherapy or radical prostatectomy for localized prostate cancer: A prospective longitudinal study.	Urology	68	1230-36	2006
Aoyama H, <u>Hayakawa, K</u> , et al.	Stereotactic radiosurgery plus whole-brain radiation therapy vs stereotactic radiosurgery alone for treatment of brain metastases: a randomized controlled trial.	JAMA	295 (21)	2483-91	2006
Niibe Y, <u>Hayakawa, K</u> , et al.	Frequency and characteristics of isolated para-aortic lymph node recurrence in patients with uterine cervical carcinoma in Japan: A multi-institutional study.	Gynecol Oncol	103(2)	435-38	2006
Niibe Y, <u>Hayakawa, K</u> , et al.	Japanese Isolated Para-aortic Lymph Node Recurrence of Uterine Cervical Carcinoma Study Group. Multi-institutional study of radiation therapy for isolated para-aortic lymph node recurrence in uterine cervical carcinoma: 84 subjects of a population of more than 5,000.	Int J Radiat Oncol Biol Phys	66(5)	1366-9	2006
Eguchi T, <u>Kato H</u> , et al.	Histopathological criteria for additional treatment after endoscopic mucosal resection for esophageal cancer: analysis of 464 surgically resected cases.	Modern Pathol	19	475-80	2006
Nakamura, K, <u>Teshima, T</u> , et al.	Radiotherapy for localized hormone-refractory prostate cancer in Japan.	Anticancer Research	24	3141-6	2004
Ogata Y, <u>Teshima T</u> , et al.	Particle irradiation suppresses metastatic potential of cancer cells.	Cancer Research	65(1)	113-20	2005
<u>Fukumura, A.</u>	Proton beam dosimetry intercomparison with new Japanese protocol.	Medical Radiation Dosimetry	9	37-42	2004
Yokoyama A, <u>Kato H</u> , et al.	Esophageal squamous cell carcinoma and Aldehyde dehydrogenase-2 genotypes in Japanese females.	Alcoholism: Clinical and Experimental Research	30	491-99	2006
Hatakeyama H, <u>Kato</u>	Protein clusters associated with	Proteomics	6	6300-16	2006

H, et al.	carcinogenesis, histological differentiation and nodal metastasis in esophageal cancer.				
Yamada H. Shimoyama N. et al.	Morphine can produce analgesia via spinal kappa opioid receptors in the absence of mu opioid receptors	Brain Research	1083(1)	61-69	2006
Shimoyama, M., and Shimoyama, N.	Change of dorsal horn neurochemistry in a mouse model of neuropathic cancer pain.	Pain	114	221-30	2005
Shimoyama N, et al	An antisense oligonucleotide to the N-Methyl-D- Aspartate (NMDA) subunit, NMDAR1, attenuates NMDA-induced nociception, hyperalgesia and morphine tolerance.	J Pharmacol Exp Ther	312(2)	834-40	2004
Shinoda, M, et al.	Clinical aspects of multimodality therapy for respectable locoregional esophageal cancer.	Ann Thorac Cardiovasc Surg	12(4)	234-41	2006

雑誌（日本語）

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
<b>平成16年度</b>					
新保宗史、西尾禎治、遠藤真広、池田 恢、他	外部照射（X線）治療の線量に関する品質保証（QA）についてのアンケート調査結果（1）－1.	日放腫会誌	16	111 - 19	2004
池田 恢	わが国の放射線治療の現況と展望	医療	58	284—88	2004
池田 恢、廣川 裕、他	放射線治療システムの品質保証・品質管理	映像情報メディカル	36(12)	1352-56	2004
池田 恢、遠藤真広、広川 裕、他	放射線治療事故を今後どう生かすか —第17回学術大会シンポジウム5のまとめ—	日放腫会誌	17	133—39	2005
味木和喜子、津熊秀明、他	診療科データベースと地域がん登録との連携の重要性—大阪がん患者データベース研究会の活動紹介—	癌の臨床	51	43-46	2005
味木和喜子、津熊秀明	がん専門施設における生存率計測の標準化—死因情報に関する検討—	癌の臨床	50	737-741	2004
井岡亜希子、津熊秀明、他	地域がん登録からみた婦人科がん患者の生存率	日本臨床	62	49-54	2004
南 優子.	女性のライフスタイルと乳癌罹患のリスク	治療学	39	11-15	11-15
石倉 聡	肺癌治療における放射線治療の位置づけ	現代医療	36	137-40	2004

石倉 聡	放射線治療の品質管理・品質保証	Cancer Frontier	6	113-17	2004
加賀美芳和、池田恢 他	乳房温存療法における短期放射線 治療の安全性と有効性についての 研究	臨床放射線	49(2)	733-40	2004
加賀美芳和	放射線治療による臓器温存の実際	映像情報	35	1096-11 01	2003
加賀美芳和、他	乳房温存療法における短期放射線 治療の安全性と有効性についての 研究—初期報告—	臨床放射線	49	302-06	2003
荻野 尚	放射線照射方法とその治療—粒子 線治療	JOHNS	20	191-94	2004
荻野 尚	3.粒子線治療 陽子線治療の現状 と展望	INNERVISION	19(8)	16-19	2004
荻野 尚	癌放射線療法への進歩	Biotherapy	18	549-54	2004
西尾禎治	肺定位放射線治療におけるQAにつ いて	Jpn J Med Phys	24	Suppl. No. 4, 27-49	2004
福村明史、遠藤真広、 他	治療用線量計の校正トレーサビリ ティとその不確かさ	医学物理	24	Suppl. No. 3, 274-77	2004
福村明史、遠藤真広、 他	水吸収線量校正場の設定とルース 型電離箱に対する校正定数比の評 価	医学物理	24	Suppl. No. 2, 198-99	2004
福村明史、遠藤真広、 他	新しい治療用線量計トレーサビリ ティとその不確かさ	医用標準線量	9	1-9	2004
大山和一郎、他	① EBMに基づいた口腔癌 治療	東京都歯科医師 会雑誌	52(5)	313-19	2004
上條朋之、大山和一 郎、他	頸部食道癌の治療成績とその検討	頭頸部腫瘍	30(1)	61-66	2004
下山直人、他	がんのInformed Consentの最近 の変化	癌と化学療法	32(2)	152-55	2005- 2
下山直人、他	緩和医療の現状と今後の展望	日本呼吸管理学会 誌	14(2)	218-22	2004
下山直人	学際領域の診療緩和医療	日本産科婦人科 学会雑誌	56(11)	414-19	2004
下山直人	緒言にかえて—日本における緩和 ケアチームの現状と今後の方向性	がん患者と対症 療法	15(2)	6-11	2004
下山直人、他	婦人科がん進行例の緩和医療	日本臨床	62増10	627-31	2004
下山直人、他	がん性疼痛治療の現状と今後の展 望	今月の治療	12(9)	45-48	2004
高橋秀徳、下山直人	小児のがん性疼痛	今月の治療	12(9)	82-84	2004
下山直人、他	痛みの治療；薬物療法について	小児看護	27(7)	832-39	2004
下山直人、他	癌性疼痛	Molecular Medicine	41(6)	736-40	2004
下山直人、他	がん疼痛治療の今後	日本病院薬剤師 会雑誌	40(5)	525-26	2004
下山直人	緩和ケア医の立場から、	ターミナルケア	14(3)	247-49	2004

高橋秀徳、 <u>下山直人</u>	鎮痛補助薬の適応と使用方法	看護技術	50(4)	32-36	2004
<u>下山直人</u>	鎮痛薬の特徴と使用方法	東京都医師会雑誌	57(3)	231-36	2004
<u>下山直人</u> 、他	がん疼痛治療の今後	日本病院薬剤師会雑誌	40(5)	525-26	2004
<u>下山直人</u> 、他	鎮痛補助薬の使い方	臨床麻酔	28(3)	555-63	2004
<b>平成 17 年度</b>					
<u>池田 恢</u> 、 <u>遠藤真広</u> 、 他	放射線治療事故を今後はどう生かすかー第 17 回学術大会シンポジウム 5 のまとめー	日放腫会誌	17	133-139	2005
<u>池田 恢</u>	悪性リンパ腫 up-to-date 混沌より新たなエビデンスを求めて 16 . 放射線治療の適応と実際	医学のあゆみ	212	389-394	2005
<u>早淵尚文</u> 、 <u>遠藤真広</u> 、 <u>池田 恢</u> 、他	放射線治療のリスクマネジメントー放射線治療事故の教訓をどう生かすか	医療安全	No.3	pp.61-64	2005
<u>池田 恢</u>	JRC2005 放射線治療技術のビジョンと展開	映像情報メディカル	37(4)	361	2005
<u>小口正彦</u> 、 <u>池田恢</u> 、他	高齢者の放射線治療の留意点と課題	日本医事新報	4234	7-13	2005
<u>伊藤芳紀</u> 、 <u>池田 恢</u> 、 他	骨転移痛に対する放射線療法の実状と新しい試み	緩和医療学	7	366-373	2005
<u>池田 恢</u>	放射線治療施設での事故事例とリスクマネジメント	医療放射線防護 NEWSLETTER	43 号	pp.68-71	2005
<u>池田 恢</u>	明日への提言：多業種の人材育成と、多業種間協調による進歩を	映像情報メディカル	37(9)	793	2005
<u>多田三千代</u> 、 <u>金子聰</u> 、 <u>今村由香</u> 、他	地域がん診療拠点病院における標準的院内がん登録の運用に向けた試み:Casefindingの重要性.	診療録管理	17(3)	27-32	2006
<u>味木和喜子</u> 、 <u>津熊秀明</u> 、 他	診療科データベースと地域がん登録との連携の重要性ー大阪がん患者データベース研究会の活動紹介ー.	癌の臨床	51	43-46	2005
<u>西本寛</u>	個人情報としての診療情報 医療の現場で、診療記録、看護記録等の問題は？ 医師として診療情報の課題を考える.	医療マネジメント学会雑誌	6(1)	1345-69	2005
<u>西本寛</u>	診療記録の課題を考える (1) 医療者間の共有のあり方.	病院	64(11)	936-937	2005
<u>西本寛</u>	診療記録の課題を考える (2) 医療者ー患者間の共有のあり方.	病院	64(12)	1012-1013	2005
<u>西本寛</u>	診療記録の課題を考える (3) 社会との情報共有のあり方.	病院	65(1)	73-74	2006
<u>新保宗史</u>	放射線治療品質管理と第三者による確認の意味	医用標準線量研究会		(印刷中)	
<u>新保宗史</u>	特集放射線治療のマンパワー不足	JASTRO ニュー	通巻 78	pp.17-1	2005

	の解消に向けて：医学物理士の確保	スレター		8	
新保宗史	医学物理士と放射線治療品質管理	医学物理士会会報		(印刷中)	
新保宗史	放射線治療品質管理と第三者による確認(教育講演資料)	医学物理	25 (Sup.1)	pp.35-49	2005
新保宗史	絶対線量測定の商品管理プログラムと第三者機関の監査試案(第三回放射線治療品質管理士講習会資料)	放射線治療品質管理機構		pp.39-46	2006
富松英人、加藤抱一、他	特殊組織型の食道悪性腫瘍 X線の立場から	胃と腸	40	310-319	2005
那須淳一郎、高嶋成光、他	家族癌調査のシステム化による家族性腫瘍相談室の運営	家族性腫瘍	5	57-60	2005
栗田 啓、高嶋成光	独立行政法人下で求められる医療の質：臨床評価指標と設定と評価・がん診療について	医療	59	17-19	2005
青儀健二郎、高嶋成光	乳癌術後化学療法とクリニカルパス	外科治療	92	819-825	2005
栗田 啓、高嶋成光・他	膵癌治療のプロトコール・国立病院機構四国がんセンター	臨床外科	60	235-242	2005
<b>平成 18 年度</b>					
池田 恢	がん医療の均てん化に向けて	日放腫会誌	18	61-65	2006
医学放射線物理連絡協議会(池田恢、福村明史、他)	竹田総合病院における過小照射事故の原因及び再発防止に関する調査報告書	日本医放会誌、他			平成18年11月
池田 恢、加賀美芳和、他	各種高精度放射線治療の適用と問題点	Cancer Frontier	8	115-127.	2006
平林由香、西本寛、他	がん診療連携拠点病院院内がん登録標準登録様式登録項目とその定義 2006 年度版修正版による登録：診療情報管理士の役割	メディカルレコード	32(1)	9-12	2006
平林由香、西本寛、他	がん診療連携拠点病院院内がん登録における診療情報管理士の役割	メディカルレコード	32(1)	6-10	2006
江森佳子、西本寛、他	がん診療連携拠点病院における院内がん登録標準化システムについて	ITヘルスケア学会学術学会抄録集	17(3)	18-22	2006
西本寛	がん登録システム	癌の臨床	52(7)	1-5	2006
津熊秀明、他	院内がん登録の機能と現状.	最新医学		(印刷中)	
伊藤芳紀、加賀美芳和、他	直腸癌に対する新しい治療 直腸癌補助放射線療法 日本で標準治療となり得るか	外科治療(0433-2644)	95(1)	43-51	2006
小口正彦、加賀美芳和、他	鼻 NK/T 細胞リンパ腫に対する RT-DeVIC 療法：JCOG0211-DI における放射線治療の品質保証(会議	頭頸部癌(1349-5747)	32(2)	228	2006

	録)				
伊藤芳紀, <u>加賀美芳和</u> , 他	局所進行膵癌に対する 5-FU 持続静注併用多分割照射の臨床第 II 相試験(会議録) (0048-0428)	日本医放会誌	65回抄録	S216	2006
<u>加賀美芳和</u>	線量分割法の最近の話題 頭頸部腫瘍の線量分割(会議録) 0048-0428	日本医放会誌	65回抄録	S81	2006
北野雅史, <u>早川和重</u> , 他	前立腺癌の高線量率密封小線源治療後の直腸炎について: 内科的治療とその効果	臨床放射線	51(10)	1202-1208	2006
佐藤威文, <u>早川和重</u> , 他	限局性前立腺癌に対する放射線治療: LDR, HDR, および 3D-CRT の health-related QOL に関する前向き比較検討	泌尿器外科	19(臨増)	419-421	2006
<u>新保宗史</u>	放射線治療品質管理と第三者による確認の意味	医用標準線量研究	11(1)	21-24	2006
<u>新保宗史</u>	医学物理士と放射線治療品質管理	医学物理士会会報	18	15-16	2006
井垣弘康, <u>加藤抱一</u>	特集 イラストレイテッド外科標準術式 食道亜全摘結腸再建術	臨床外科	61	23-29	2006
<u>下山直人</u>	許認可薬の適応外使用について	緩和ケア	16Suppl	294-296	2006
下山恵美, <u>下山直人</u>	がん性神経障害性疼痛の基礎研究	ペインクリニック	27(8)	959-964	2006
笠井慎也, <u>下山直人</u> , 他	がん性疼痛患者におけるオピオイドの作用、副作用に関する遺伝子解析	ペインクリニック	27(8)	965-973	2006
高橋秀徳, <u>下山直人</u> , 他	モルヒネ、フェンタニル、オキシコドンを使い分ける (オピオイドローテーション)	モダンフィジシャン	26(7)	1210-1211	2006
<u>下山直人</u> , 他	緩和ケアにおける麻酔科の役割	日本医師会雑誌	135(4)	806-811	2006
村上敏史, <u>下山直人</u>	がん性疼痛における痛みのアセスメント	痛みと臨床	6(3)	72-77	2006
高橋秀徳, <u>下山直人</u> , 他	モルヒネの効かないがんの痛みをどうするか?	Modern Physician	26(6)	1024	2006
越川貴史, <u>下山直人</u>	在宅緩和ケアへの移行と疼痛管理について	癌と化学療法	33(5)	611-615	2006
辻尚子, <u>下山直人</u>	小児がんの痛みと治療の基本姿勢	がん患者と対症療法	17(1)	6-10	2006
<u>下山直人</u>	がん患者におこる痛みの治療におけるオピオイド製剤の使い方	実験治療	681	60-63	2006
<u>下山直人</u> , 他	麻酔科医がペインクリニック、そして緩和ケア医となって	日本臨床麻酔学会誌	26(1)	18-24	2006
<u>篠田雅幸</u> , 他	食道癌治療のプロトコール 愛知県がんセンター中央病院胸部外科	臨床外科	60(11)	7-14	2005